

令和6年度 新体力テスト結果と考察

		1年(男子)	2年(男子)	3年(男子)	4年(男子)	5年(男子)	6年(男子)	1年(女子)	2年(女子)	3年(女子)	4年(女子)	5年(女子)	6年(女子)
		県平均											
握力		9.01	10.59	12.34	14.06	16.17	19.07	8.53	10.06	11.79	13.65	16.22	19.10
	R6	8.53	10.42	12.26	12.95	13.96	18.95	9.10	9.41	12.41	13.50	13.31	16.66
	(kg)	▲	▲	▲	▲	▲	▲	○	▲	○	▲	▲	▲
上体起こし		12.27	15.34	17.49	19.18	20.92	22.69	11.80	14.82	16.96	18.66	20.14	21.25
	R6	13.84	14.51	15.81	16.90	19.35	21.90	14.85	15.97	17.19	15.72	20.19	21.50
	(回)	○	▲	▲	▲	▲	▲	○	○	○	▲	○	○
長座体前屈		27.47	29.23	31.14	33.19	35.85	38.04	29.98	32.34	34.90	37.46	40.89	43.67
	R6	29.65	28.69	28.82	30.78	32.20	35.68	32.68	32.34	35.02	32.94	36.03	40.55
	(cm)	○	▲	▲	▲	▲	▲	○	—	○	▲	▲	▲
反復横跳び		27.88	31.97	35.52	39.23	43.02	46.16	26.71	30.54	33.82	37.64	41.16	43.62
	R6	32.23	30.84	33.86	35.28	41.35	48.61	29.65	30.82	34.00	34.79	38.86	45.33
	(点)	○	▲	▲	▲	▲	○	○	○	○	▲	▲	○
20mシャトルラン		21.09	30.30	37.87	44.69	51.40	59.23	17.79	24.14	29.41	35.62	41.87	46.90
	R6	22.17	18.61	41.14	34.25	49.70	50.14	16.95	19.49	32.02	26.85	34.23	46.44
	(回)	○	▲	○	▲	▲	▲	▲	▲	○	▲	▲	▲
50m走		11.56	10.72	10.18	9.77	9.39	8.93	11.87	11.06	10.50	10.04	9.59	9.19
	R6	11.68	11.07	9.92	9.66	9.20	8.99	11.58	10.98	10.09	9.82	9.76	9.41
	(秒)	▲	▲	○	○	○	▲	○	○	○	○	▲	▲
立ち幅跳び		116.53	127.80	137.00	145.64	155.05	165.55	109.20	119.72	129.96	139.80	149.33	157.13
	R6	108.93	115.31	143.08	140.48	157.70	169.56	108.58	111.03	135.00	144.53	147.60	159.54
	(cm)	▲	▲	○	▲	○	○	▲	▲	○	○	▲	○
ボール投げ		8.04	10.85	13.76	16.80	19.65	22.78	5.69	7.43	9.36	11.34	13.29	14.94
	R6	9.58	10.81	14.85	14.95	17.73	20.80	7.24	6.91	9.48	10.60	12.00	14.46
	(m)	○	▲	○	▲	▲	▲	○	▲	○	▲	▲	▲

※県平均値 は令和5年度のもの

○埼玉県平均値との比較

- ・県平均値との比較して下回る項目の方が多かった。
- ・項目ごとの数値を見てみると、県平均と大きくかけ離れているものもある。
- ・学年により、県平均を上回る項目が多い学年と、下回っている学年の差が見られる結果となった。

【今後の対策について】→環境面と技能面の両方の支援が必要である。

①運動量を確保した授業の実践

- ・授業の中で、体を動かす時間を確保し、全体の運動量を増やすよう取り組む。

②帯活動の実施・継続(今年度は、授業の導入部分で50m全力ダッシュ1本・冬は短縄跳びも追加)

- ・授業内で50mを全力で走る機会を毎時間設け、記録の向上につなげる。

③家庭との連携

- ・長期休暇中の運動習慣についての連携や、各種運動の情報提供

④外遊びの励行

- ・声かけや運動に興味をもつ掲示物など

○本校だけではなく県平均から考察しても、児童の体力は年々低下している傾向がみられる。体力向上の点から、学校だけでなく、家庭や地域の連携が必要な状況である。

○運動好きな子を育てるため、運動が苦手な子への支援だけでなく、運動が得意な子への支援も必要と考えられる。